第 434 回「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

『教育の懸け橋』 ～ 継続の大切さ ～

2026 年 10 月 12 日は『スポーツの日』の祝日である。 早朝 下記のメールが届いた。 【樋野先生 『楕円形の心』を読みながら先生のエネルギッシュな活動にいつも感嘆をしています。 今回は第 578 回、気の遠くなるような発信回数に驚嘆しながら、内容に心打たれるものがあり、メールを送らせていただきました。 『偉大なるお節介』と『余計なお節介』のお話、興味深く伺いました。 私たちの会は平均年齢が８０半ばの活動ですが、体調不良や認知機能の衰えなどいろいろ問題が顕在化してきました。 支え合いで何とか対応していますが、お節介の内容が問われる状況にあります。 個人の必要に共感する『偉大なお節介』を自分の課題として会の運営に当たっていく必要を学ばせていただきました。 善意からですが、個人のプライバシーに深入りする会員同士の『余計なお節介』を目の当たりにすることがあり、反省材料と思いました。 ヘレン・ケラーの言葉は心に沁みました。】との『心温まる励ましの言葉』には、大いに感動した。

10 月 13 日は、新渡戸稲造記念センター―＞第 141 回『がん哲学外来メディカル･カフェ＠よどばし』(淀橋教会に於いて)に赴く。『がん哲学外来メディカル･カフェ＠よどばし』は、2014 年 7 月 6 日（日）にスタートされた。何時も、『365 日の紙飛行機』(作詞:秋元康,作曲:角野寿和・青葉紘季)の熱唱で始まり、『糸』(作詞 ＆ 作曲:中島みゆき)を合唱して終える。 7 月 26 日(日)は『メディカル･カフェ＠よどばし 12 周年記念講演会』が企画された。 『継続の大切さ』を実感する日々である。

筆者は その後 留学生向けの 順天堂大学大学院医学研究科博士課程 Unit2『腫瘍医学』の授業【10 月 5 日 イントロダクション Introduction Carcinogenesis『オーバービュー・がん研究の歴史（分子生物学、ウイルス発がん、動物モデルなど）』キーワード： 山極勝三郎 ・ 吉田富三 ・ Alfred Kundosn/ 10 月 13 日 『がん研究の最前線: Cancer Research and Education』キーワード：がん哲学(Cancer Philosophy) ･遺伝性がん(Hereditary Cancer) ・ 環境発がん(Environmental Cancer) 】に向かう。

10 月 7 日は、順天堂大学大学院修士課程 英語コース:『Overview of Human Pathology and Oncology 病理腫瘍病態学概論 Cancer がんの定義、自然史と介入』の講義を行った。 順天堂大学大学院生 留学生への『連チャン症候群の授業』である。 まさに、『教育の懸け橋』を実感する日々である！